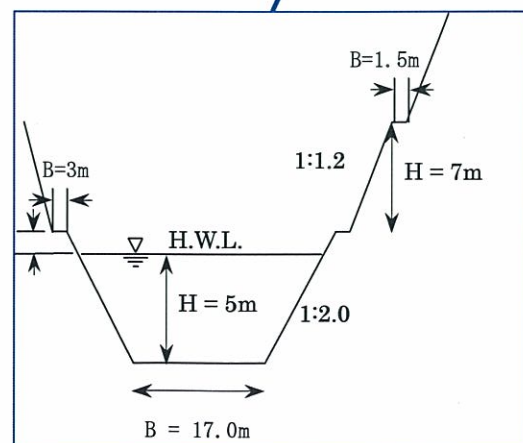
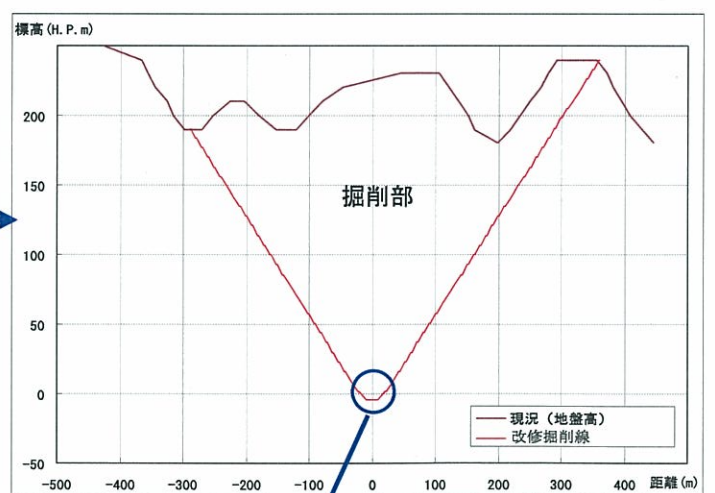
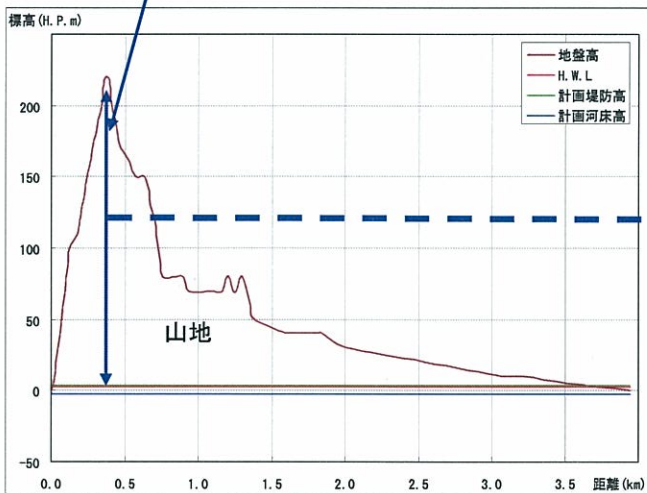
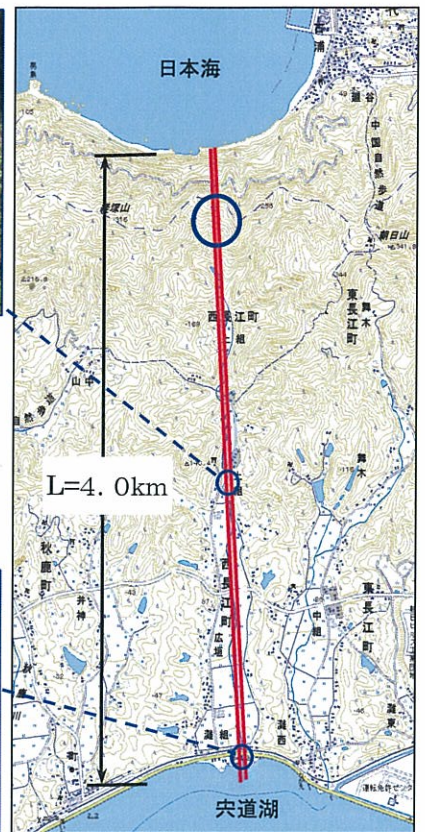


代 替 案 一 覧 表

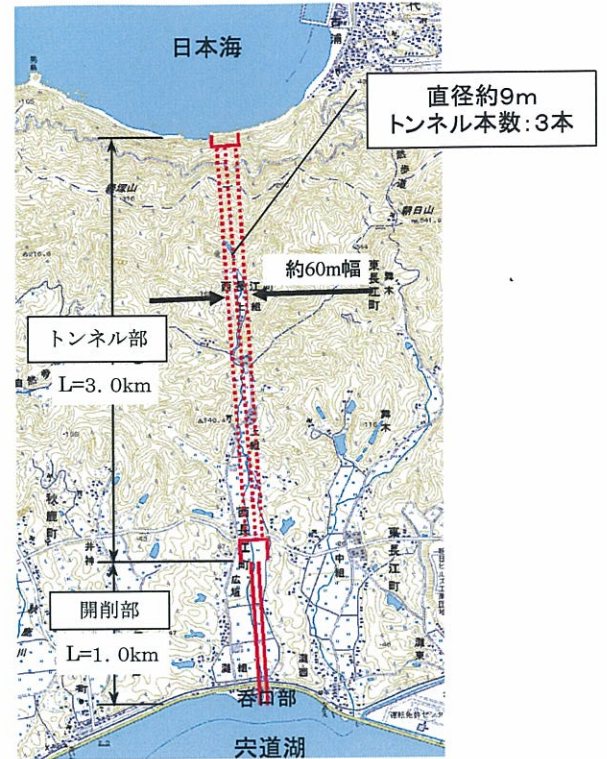
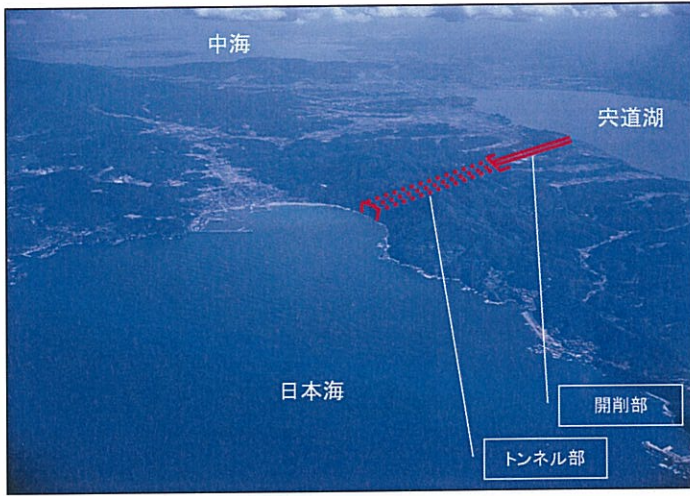
【参考資料】

代替案一覧表（参考資料）は、大橋川周辺まちづくり検討委員会および検討委員会の主催で平成18年9月10日（日）に開催された「大橋川周辺のまちづくりを考える市民意見交換会」などにおいて提出された大橋川改修に関する代替案をまとめたものです。

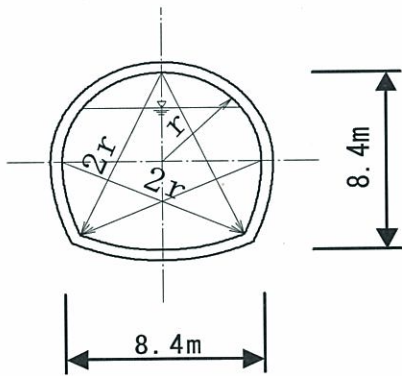
◆NO.2 西長江川 開削



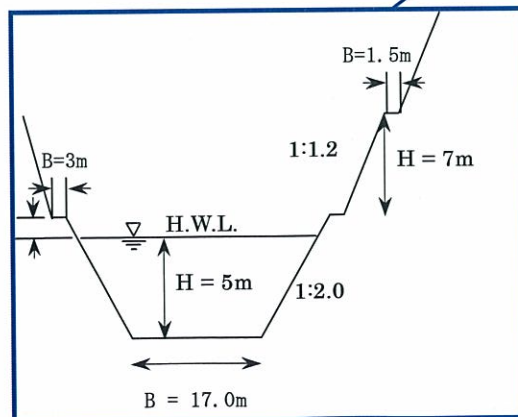
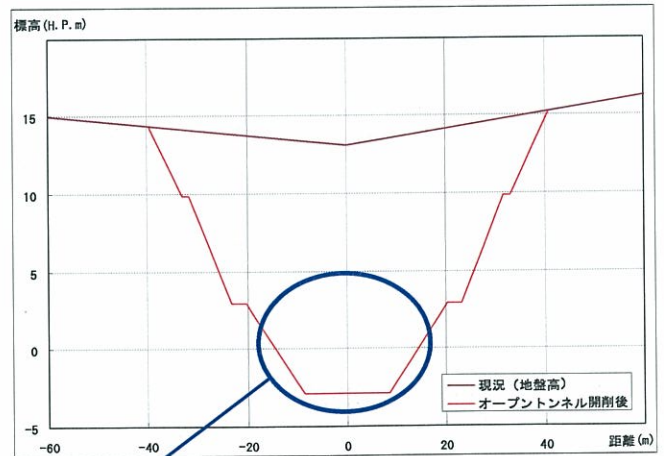
◆NO.8 西長江川 開削+トンネル



トンネル部断面図
(1本)

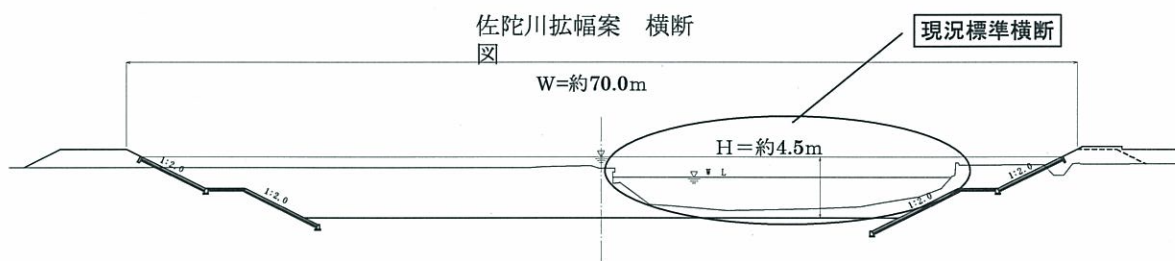
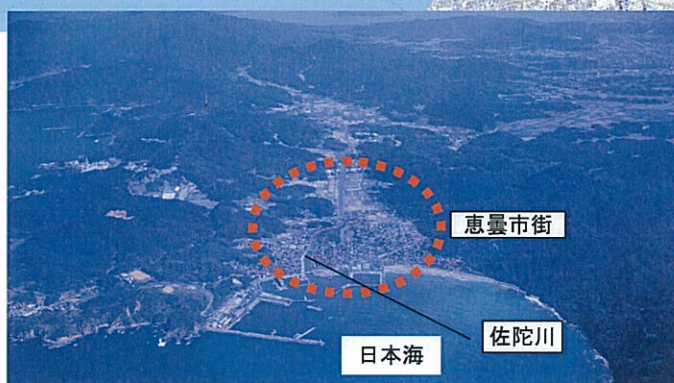


開削部断面図



◆NO.4 佐陀川 改修

●佐陀川拡幅案

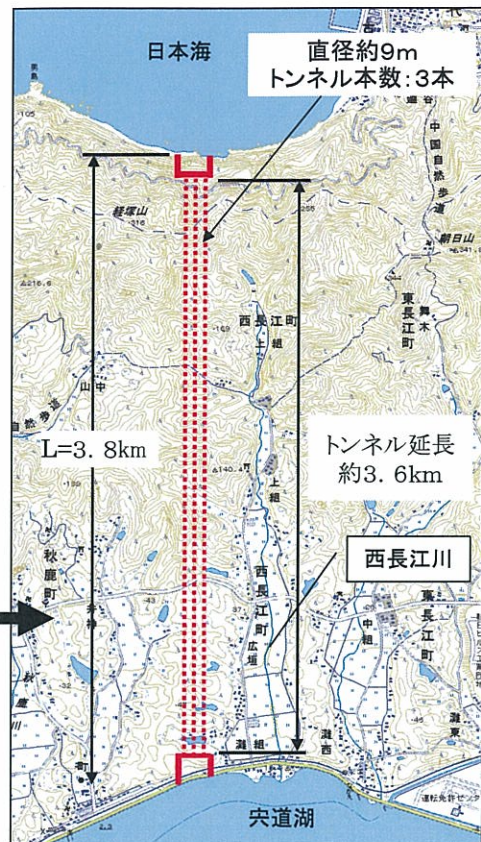
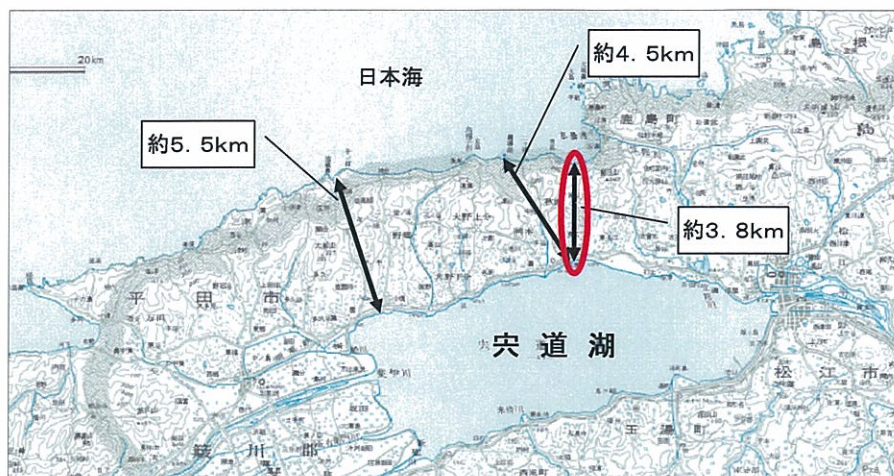


◆NO.5 佐陀川 改修+トンネル

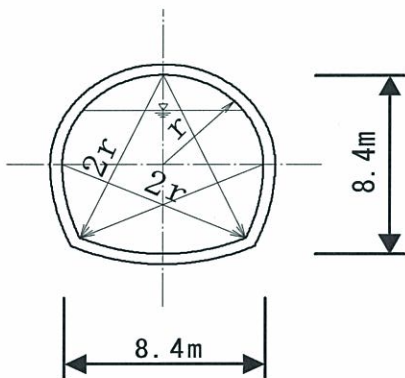
●佐陀川拡幅+トンネル併用案



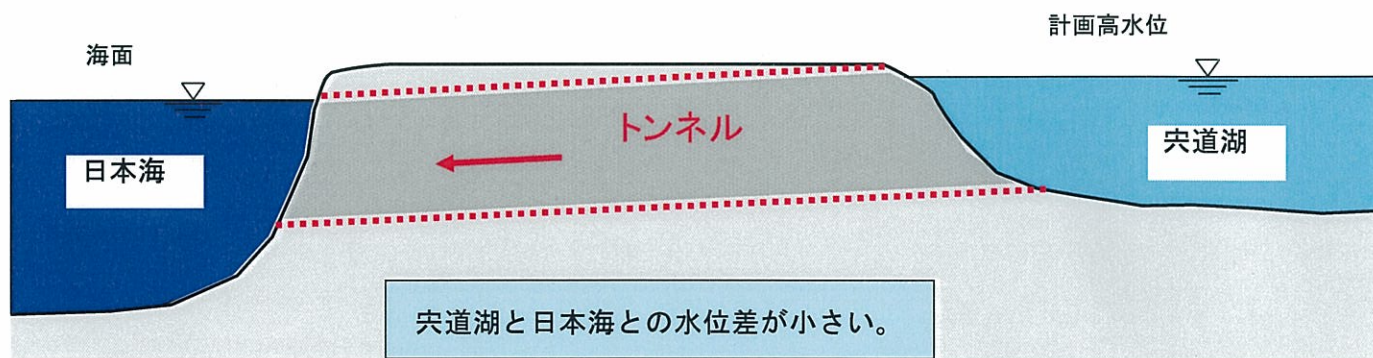
◆NO.6 西長江トンネル



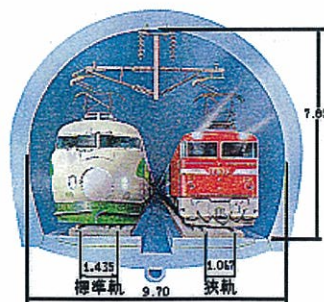
トンネル断面図



◆穴道湖から日本海への最短距離の箇所にて検討

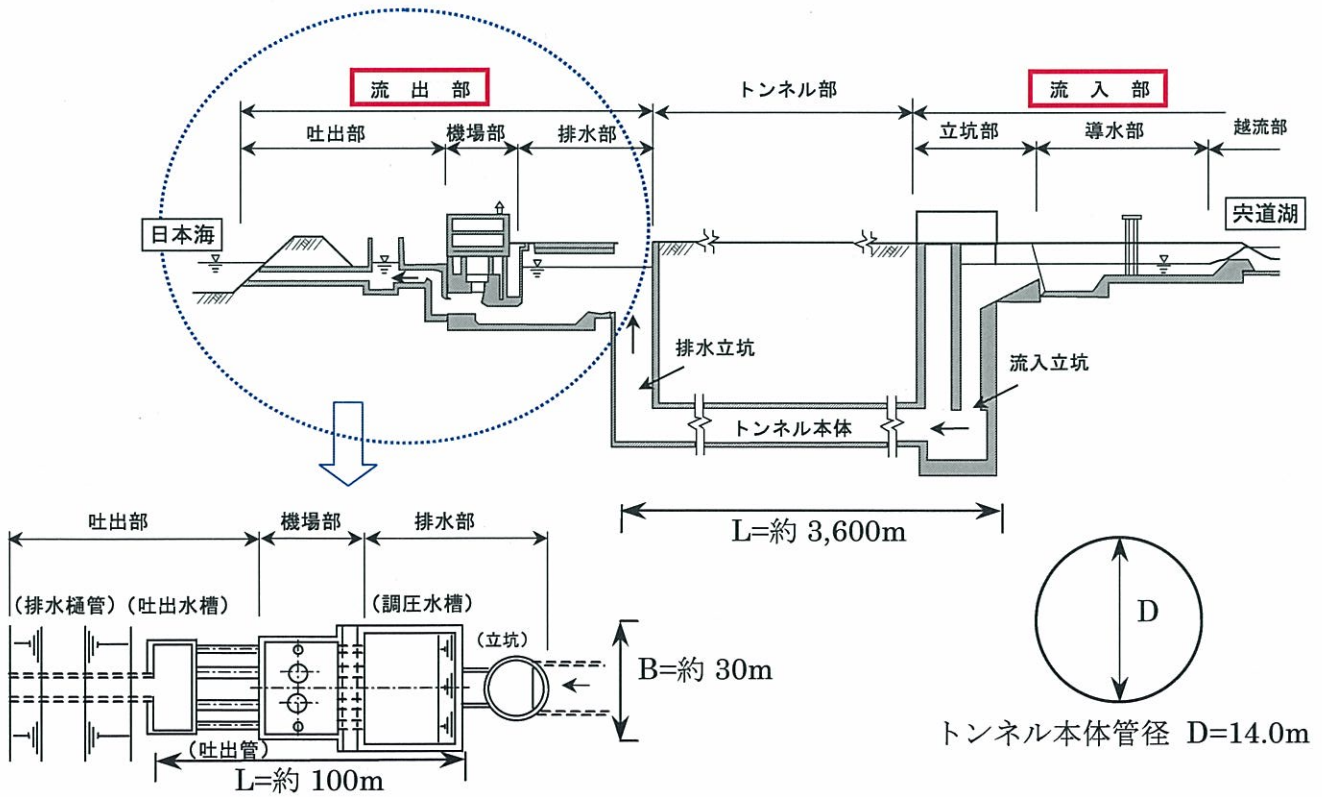
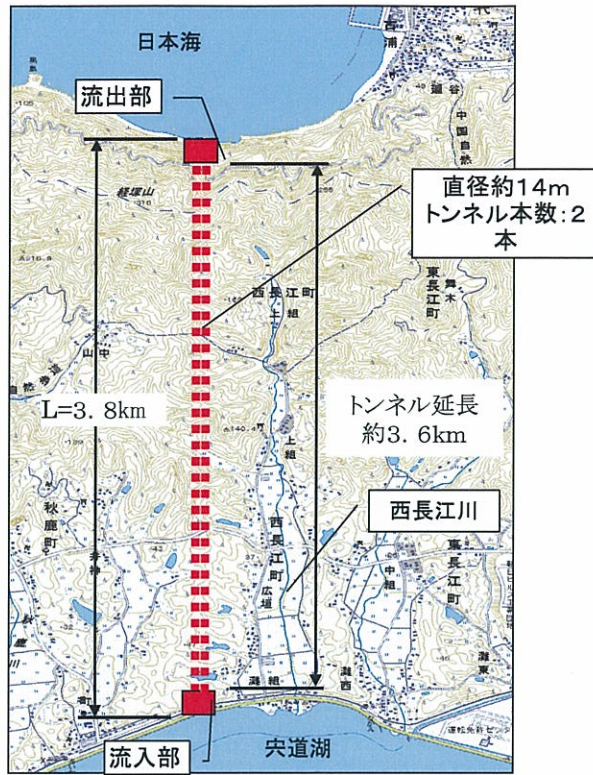


【参考】
 ◆青函トンネル
 高さ7.85m、幅9.7mの列車が通る
 トンネルで3階建てのビルがすっぽり入る大きさ。

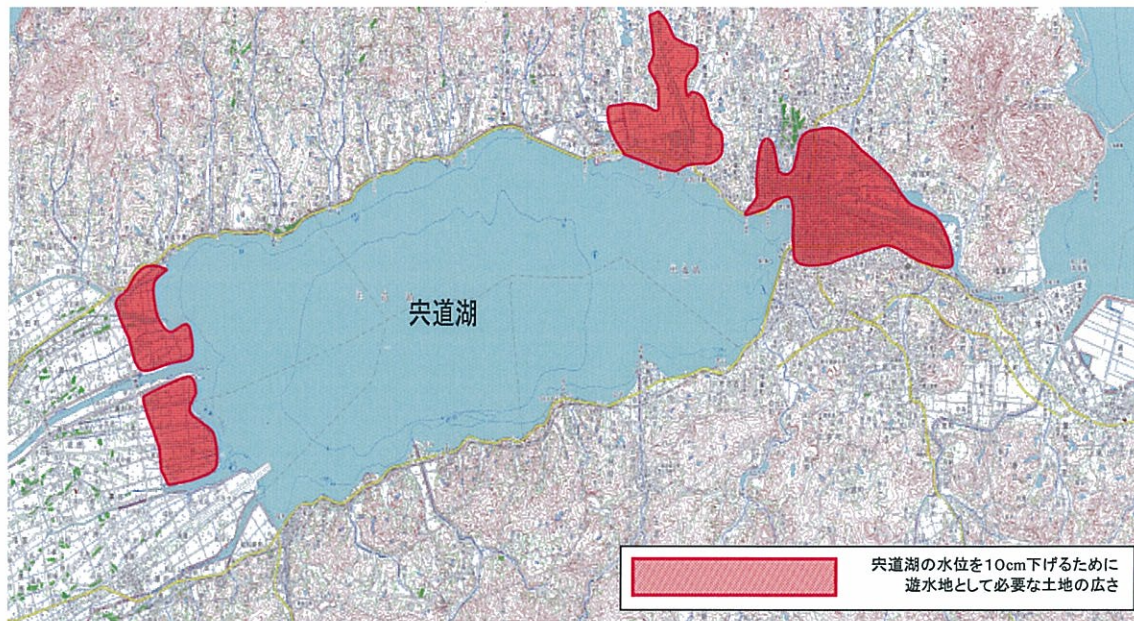


◆NO.7 西長江トンネル+ポンプ

● 宍道湖と日本海との水位差が小さいことから洪水が流れにくいいためポンプを使って排水する場合



◆NO.3 宍道湖廻りに遊水池



- 【参考】 宍道湖水位を遊水池の設置によって、10cm下げようとする、約16km²の広さの土地が必要です。
- ・宍道湖面積：約79km²(大橋川含まず)
 - ・宍道湖水位10cm分の容量は、79km² × 10⁶ × 0.10m = 7,900,000m³
 - ・松江市内の地盤標高を2.0mにすると計画高水位2.5mとの間の0.5mに洪水を貯めることとすると
7,900,000m³ ÷ 0.5m = 15,800,000m² ≈ 16km²

◆NO.9 地下調整池



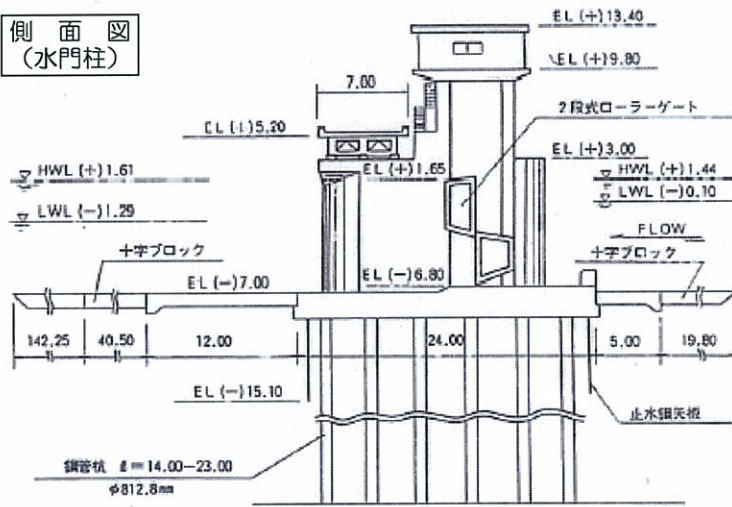
水位低下量0.1m × 宍道湖面積(大橋川含まず)79km² = 790万m³

◆NO.10 潜り堰（稼動式潮止め堰）

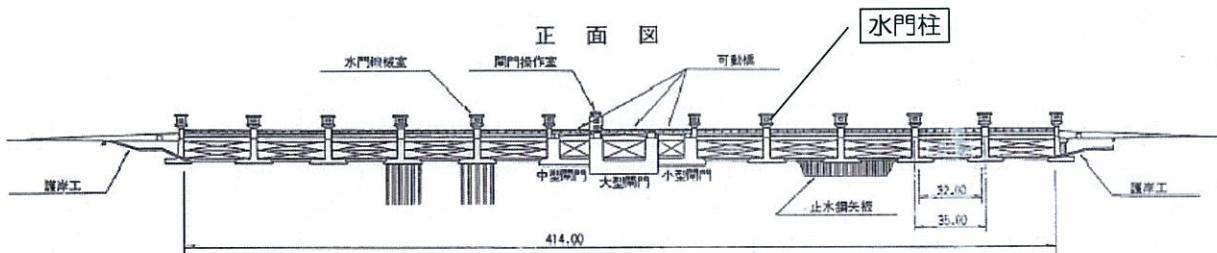
◆中浦水門構造



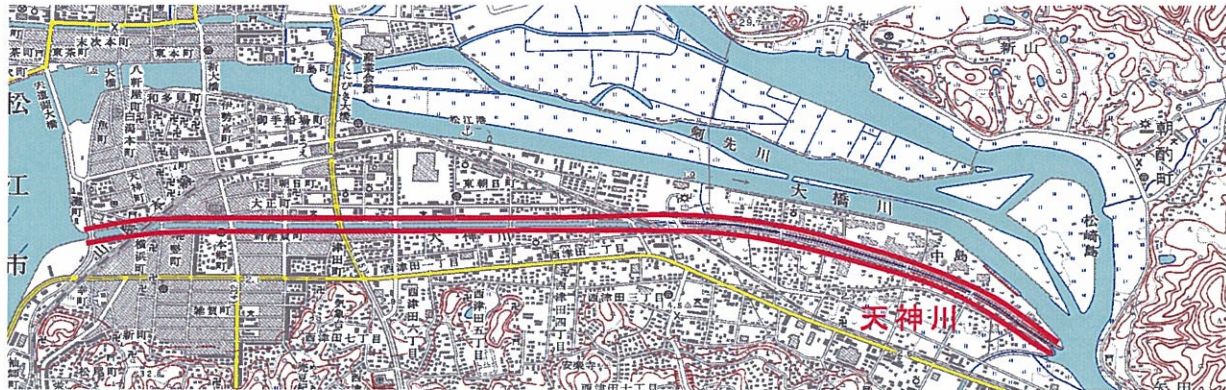
側面図
(水門柱)



正面図



◆NO.11 天神川拡幅



天神川を改修しても
大橋川の堤防は必要です

天神川を改修すると
多くの家屋移転等が発生します



◆NO.12・13 上流部・下流部へのバイパストンネル

■上流部



■下流部

